

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	情報メディアと社会(Media technology & Society)		授業コード	P090101
担当教員名	高 文局		科目ナンバリングコード	P10901
配当学年	1	開講期	前期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	特にありません。			
受講心得	プリントの配布や課題があります。遅刻・欠席をしないよう心がけてください。			
教科書	別途指示します。			
参考文献及び指定図書	『電子社会論』遠藤 薫 著、実教出版 『メディア論』吉見俊哉、水越 伸 共著、放送大学教育振興会 『メディア・プラクティス』水越 伸・吉見俊哉 編著、せりか書房 『情報倫理学』越智 貢・土屋 俊・水谷雅彦 編著、ナカニシヤ出版 『ネットワーク社会の情報倫理』山住富也、湯浅聖記 共著、近代科学社			
関連科目	【後修科目】 情報メディアと法・倫理 【先修・後修に関係なく関連性の高い科目】 情報メディアとビジネス、Webデザイン、CG1,2,3、サウンド1,2,3、映像1,2、デジタルコンテンツ論			

授業の目的	この科目の目標は、社会システムの急速な変革が進む中、情報社会という視点がなぜ重要なのかを理解すると同時に、今日における様々な社会問題などをグローバルな観点から捉えることのできる能力を養うことにあります。
授業の概要	スマートフォンやタブレットPCなどの普及に伴い、インターネット空間が新たな市民参加空間としてその影響力を増しています。この科目では、主にインターネット空間を中心として行われる一般市民の「メディア実践」をオンライン・ジャーナリズムの観点から考察することを主な目的とします。そのために、コミュニケーション空間における私たちの位相の変化について学び、ソーシャルメディアなどの特徴やそのオルタナティブ・メディアとしての可能性や課題、さらには著作権などの問題についても議論します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：「スタートアップセミナー」	
第2週：ガイダンス 授業内容と講義の進め方や評価方法などについて、ガイダンスを行いません。	
第3週：情報化社会を理解する(1) 「情報化社会」を正しく理解するために、基本となる概念や「情報化社会」に対する既存の概念定義を考察し、その内容と問題点などについて学習します。 ・「情報」とは？(情報の語源的な意味、データ・情報・知識の関係、情報の性質や機能など) ・「情報化社会」の概念定義と問題点	配付資料 「情報化社会を理解する。」
第4週：情報化社会を理解する(2) 「情報化社会」を正しく理解するために、基本となる概念や「情報化社会」に対する既存の概念定義を考察し、その内容と問題点などについて学習します。 ・「情報化社会」の再考 ・情報化の「光の部分」と「影の部分」	配付資料 「現代社会における情報化について」 「情報化の「光の部分」と「影の部分」について考えよう」
第5週：インターネット空間を理解する(1)ーインターネットとコミュニケーション ここでは、まず「インターネット空間」を理解するための基礎知識を学習することにしませう。 ・人間とコミュニケーション(メディアとコミュニケーション様式)	配付資料 「インターネットとコミュニケーションについて考える。」
第6週：インターネット空間を理解する(1)ーインターネットとコミュニケーション	

<p>ここでは、まず「インターネット空間」を理解するための基礎知識を学習することにし ましょう。 ・マス・メディアと社会(大衆、群集、公衆について、マス・コミュニケーション効果研究 など)</p>	<p>配付資料 「インターネットとコミュニ ケーションについて考え る。」</p>
<p>第7週：インターネット空間を理解する(1)ーインターネットとコミュニケーション ここでは、まず「インターネット空間」を理解するための基礎知識を学習することにし ましょう。 ・インターネット空間の理解(双方向性、匿名性、「公共圏」概念などについて)</p>	<p>配付資料 「インターネットとコミュニ ケーションについて考え る。」</p>
<p>第8週：インターネット空間を理解する(2)ー事例を通して考える「インターネット空間」 の可能性と課題 ここでは、IT先進国といわれる韓国の情報化を事例に、インターネット空間の可能性と 課題を考察します。 ・オルタナティブ・メディアの可能性</p>	<p>配付資料 「インターネット空間の可能 性と課題について」</p>
<p>第9週：インターネット空間を理解する(2)ー事例を通して考える「インターネット空間」 の可能性と課題 ここでは、IT先進国といわれる韓国の情報化を事例に、インターネット空間の可能性と 課題を考察します。 ・メディア・プラクティス - 「オンライン・ジャーナリズム」</p>	<p>配付資料 「インターネット空間の可能 性と課題について」</p>
<p>第10週：インターネット空間を理解する(2)ー事例を通して考える「インターネット空間」 の可能性と課題 ここでは、IT先進国といわれる韓国の情報化を事例に、インターネット空間の可能性と 課題を考察します。 ・韓国の情報化と「ソーシャル・メディア」</p>	<p>配付資料 「インターネット空間の可能 性と課題について」</p>
<p>第11週：インターネット空間を理解する(3)ーインターネットビジネス インターネットにより容易に必要な情報を検索することができるようになり、消費者が商 品を購入する場合においても、まずインターネットから情報を得て、その情報を基にして 商品を選択・購入するという新しい消費行動スタイルに変わりつつあります。また、企業 においても広告宣伝や商品の販売などで、インターネットを活用した新しいビジネスス タイルが生まれてきています。ここでは、インターネットによりどのようなビジネスが生ま れてきたか、インターネットがビジネスのやり方をどう変えつつあるかを学びます。 ・インターネットによる新しいビジネスモデル ・インターネットによる広告ビジネス ・インターネット電子マーケットの現状と可能性、そして課題</p>	<p>配付資料 「インターネットビジネスに ついて具体的な事例を挙 げる。」</p>
<p>第12週：インターネット空間と「私」(1)ーメディア・リテラシーとは何か メディア・リテラシーとは、人間がメディアを介して情報を批判的に受容、解釈すると同 時に、メディアを選び、使いこなして自らの考えていることを表現し、コミュニケーションの 回路を生み出していくという、複合的な活動のことです。ここでは、メディア・リテラシーの 系譜とその定義をメディア使用活動、受容活動、表現活動という3つの次元において整 理してみます。さらに、メディア・リテラシーという営みが抱えている根本的な問題や今日 のようなメディア社会において、メディアと関わる新しい人間像についても考えてみま す。 ・メディア・リテラシーとは？ ・メディア・リテラシーの根本問題</p>	<p>配付資料 「メディア・リテラシーとは何 かについて考える。」</p>
<p>第13週：インターネット空間と「私」(2)ーメディア・リテラシーとは何か メディア・リテラシーとは、人間がメディアを介して情報を批判的に受容、解釈すると同 時に、メディアを選び、使いこなして自らの考えていることを表現し、コミュニケーションの 回路を生み出していくという、複合的な活動のことです。ここでは、メディア・リテラシーの 系譜とその定義をメディア使用活動、受容活動、表現活動という3つの次元において整 理してみます。さらに、メディア・リテラシーという営みが抱えている根本的な問題や今日 のようなメディア社会において、メディアと関わる新しい人間像についても考えてみま す。 ・メディアと関わる人間像の変化：能動的なメディア表現者/批判的な受容者</p>	<p>配付資料 「メディア・リテラシーとは何 かについて考える。」</p>
<p>第14週：情報化社会と「情報倫理」(1)</p>	

ここでは、「情報倫理」を取り上げ、情報化社会におけるさまざまな課題や解決策について考えてみましょう。 ・「情報倫理」とは？ ・「知的所有権」について	配付資料 「情報化社会と「情報倫理」について」	
第15週：情報化社会と「情報倫理」(2) ここでは、「情報倫理」を取り上げ、情報化社会におけるさまざまな課題や解決策について考えてみましょう。 ・事例を通して考える「情報化社会の課題と解決策」	配付資料 「知的所有権について具体的な事例を挙げて復習する。」	
第16週：期末試験 これまでの講義内容を範囲とした小論文形式の試験を行います。		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	
【知識・理解】	①「情報化社会」を理解する。 ②「インターネット空間」の特徴を理解し、eビジネスの可能性と課題を認識する。
【技能・表現・コミュニケーション】	
【思考・判断・創造】	③メディアリテラシーを正しく理解し、自分の行う表現活動の社会的意味を認識する。 ④情報化社会における「情報倫理問題」「人権問題」「著作権問題」などを理解する。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	10点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	40点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	30点	10点		

(「人間力」について)
 ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	レポートは、授業時に指示される記載注意事項に従って、Word文書として作成し締切日まで提出してください。すべて提出した場合は、評価の対象とします。
発表・その他(無形成果)	欠席・遅刻はしないように心掛けましょう。止むを得ず欠席・遅刻をする場合は、事前にメールなどを通して連絡してください。また、研究室に寄り欠席した日の資料を受け取ってください。授業に欠席や遅刻・早退せずに、意欲的に取り組んだ場合、評価の対象とします。